

過日「サービス付き高齢者向け住宅」略称「サ高住」の「レガロ・ヴィータ京橋」を見学した。施設は広島駅徒歩4分、都会の一等地に建てられた高層ビルの下層部分で申し分ない環境である。各部屋は風呂とキッチンはないもののゆったりとベッドも置かれ、コンパクトにまとめられた簡素で機能的な住まいだった。

住宅への入居に際しては一般の賃貸借住宅の形態であるが要介護認定の人のためデイサービスセンターが併設されており、リハビリセンターにはエアロバイクやマッサージ付きウォーターベッド等も備えられ至れり尽くせりであった。近々2F部分に歯科医院が開設され、又近隣の内科医院との提携も予定されており健康面に不安が多い高齢入居者への配慮も行き届いている。

施設見学の間中、見学者からはこぞって「ワ―素晴らしい」と感嘆の声が上がっていたが「私には向かないと思う、出来れば生涯今の暮らしを続けたい・・・」との密やかな声が漏れ聞こえてくる。確かにここまで暮らしをすっきり纏めて、180度変容させるためにはどれだけの努力が必要だろうか。

単に「広から狭」の住宅移動に伴う「物の片づけ」いわゆるハード面の問題のみならず向こう三軒両隣りの人達の笑顔や温もり、共に支え合い長年培ってきた暮らし方に対するソフト面への「心の準備」等並大抵ではないと思われる。人生の一大イベントである転居転宅は、若い世代でも相当の負担がかかるものと言われており、ましてや高齢期を迎えての暮らし向きの大きな変革は心身に大きなダメージを与えることも有り得ると言われている。選択に際しては細心の注意が必要であろう。

しかしながら暮らし方への順応性は人様々で個人差もあるので一概には言えないが、願わ

をするのではなく、本人の自律的選択に基づき入居に臨んで欲しい。そうであれば「サ高住」は高齢期の「第3ステージ」として充実した人生の場を必ず展開してくれるに違いない。

まだ始まって日も浅く何かと難しい問題も有る様だが、高齢社会を迎えた今現在、社会的ニーズによって考案され、世間からも熱い視線を寄せられている「サ高住」である。この新しい居住空間は単に老後の余生の居場所としてではなく、高齢期の豊かな暮らしを導き出す役割を担ってくれる立派な終の棲家であって欲しいと心から願っている。

SLAとして今後の推移を見守りたい。



第5回 話題研修

サービス付き高齢者向け住宅
REGALO VITA
[レガロ・ヴィータ京橋]
見学会 3月9日(日)



昼食懇親会